

2017年7月21日

お問い合わせ先

ベインキャピタル広報担当：久世（くせ）

090-5432-6755／03-3536-2688

ベインキャピタル、株式会社雪国まいたけの間接持分 49%譲渡で株式会社神明とのパートナーシップに合意

国際的プライベート・エクイティ投資会社であり、日本企業の競争力強化の支援に注力している **Bain Capital Private Equity, LP**（そのグループを含み、以下「ベインキャピタル」）は本日、株式会社雪国まいたけ（本社：新潟県南魚沼市、代表取締役社長：足利 巖、以下「雪国まいたけ」）の間接持分 49%を米穀卸最大手の株式会社神明（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：藤尾 益雄、以下「神明」）に譲渡する買収関連契約を締結しました。

本取引の実行後、ベインキャピタルが 雪国まいたけの間接持分 51%、神明が雪国まいたけの間接持分 49%を保有する予定です。なお、譲渡額については公表しておりません。

ベインキャピタルは、本取引の実行後も神明との強力なパートナーシップの下、共同で雪国まいたけの更なる成長に取り組む予定です。雪国まいたけは、かつては希少価値から「幻のキノコ」と呼ばれていたまいたけの量産に初めて成功し、日本の食卓に普及させてきた先駆けとして、30余年にわたってきのこ業界をリードしてきた最大手のプレーヤーです。

ベインキャピタルの杉本勇次日本代表は本取引の背景について次のように述べています。

「2015年にベインが雪国まいたけに投資して以来、それまで培った雪国まいたけの高品質なきのこの栽培ノウハウを基盤に、供給の安定と生産性をより高めるための構造改革、さらに品質を高めた新商品「極」の開発、高齢化社会に即したまいたけの高い機能性・栄養価値の発信などに次々に着手し、企業価値の向上に努めてきました」。

「今回、コメを基軸に青果物や水産品を含めた川上から川下までの「食のバリューチェーン」構築を推進してきている神明との強力なパートナーシップにより、外食・中食を通じたまいたけの新たな需要創造、西日本を含めた日本全国での強固なサプライチェーン構築、食文化と合わせた輸出事業の推進といったさらなる成長が実現可能と考えております。今後、共同で一層の成長戦略を策定・実行し、事業の更なる発展を図りつつ、日本の食文化の繁栄と農林水産業振興に貢献していきたいと考えております」。

神明とのパートナーシップにより大きなシナジーが期待され、雪国まいたけの中期経営計

画達成は一層確実なものになります。同時に3～4年以内を目途に雪国まいたけの再上場を目指すことも可能となります。

ベインキャピタルは全世界で総額750億ドルを越える運用資産を持つ国際的投資会社であり、日本においては2006年に東京拠点を開設して以来、約30名のプロフェッショナルにより投資先の企業価値向上に向けた取り組みを進めています。主に事業会社・コンサルティング会社での経験を有するプロフェッショナルを中心に構成されており、一般的な投資会社の提供する資本・財務的支援にとどまらず、事業運営を現場レベルで支援・着実に成長戦略を実行し数々の価値向上施策を成功に導いた実績を有しています。日本においてはすかいらーく、マクロミル、大江戸温泉物語、日本風力開発など11社に対して、投資・価値向上実績を持っています。

雪国まいたけについて

雪国まいたけは、かつては希少価値から「幻のキノコ」と呼ばれていたまいたけの量産に初めて成功、日本の食卓に普及させてきた先駆けとして、30余年にわたってきのこ業界をリードし、えりんぎ・しめじを含めたきのこ市場を創りあげてきました。現在では連結売上約300億円に達し、国内最大手のきのこ生産事業者です。

ベインキャピタルについて

ベインキャピタル (<http://www.baincapital.com>) は、プライベートエクイティ、ベンチャーキャピタル、上場株やレバレッジローンなど、総額750億ドル以上に上る数種類のファンドを運用している世界最大級の投資会社です。ミット・ロムニーを中心としたメンバーによる1984年の創業以来、さまざまな業種にわたり、世界中で300社以上のプライベートエクイティ投資や追加的投資を行っており、事業会社・経営コンサルティング会社・投資銀行・弁護士など様々なバックグラウンドを持つ約400名の専門家チームが企業への新規投資や既存投資先の経営支援に従事しています。ベインキャピタルは、本社をボストンに置き、東京、香港、上海、ムンバイ、ニューヨーク、シカゴ、ロンドン、ミュンヘン等に拠点を有しています。